

トークイベント

「書くってどういうこと？
学問と文学の間で」2019年12月10日(火) 16:20~17:50
創思館1F カンファレンスルーム千葉雅也先生
(スピーカー)岸政彦先生
(スピーカー)西成彦先生
(コーディネーター)

私たちが「書く」とき、そこで何が起きているのでしょうか。私たちが書いているこの言葉は、どこからやってくるのでしょうか。私たちが書いているこの言葉は、はじめからどこかに存在していたのでしょうか。それともそれは、私たちによってゼロから作り出されたのでしょうか……。

先端研でフランス哲学を研究する千葉雅也が初めて書いた小説『デッド・ライン』が、このたび**野間文芸新人賞**を受賞しました。当研究科に所属する社会学者の岸政彦も、2017年に初めて書いた小説『ビニール傘』が芥川賞と三島賞の候補になり、また続いて書かれた小説『図書室』も三島賞の候補に選ばれました。

このたび、千葉雅也の野間文芸新人賞受賞を記念して、同じく当研究科の比較文学者である西成彦がコーディネーターとなり、「研究すること」と「創作すること」のはざままで表現活動をおこなってきた二人に、そもそも「書く」ということはどういうことかについて、自由に語ってもらいます。